

## 編輯室の内外

此夏も愈本格的三伏の候となつた、働くにも讀むにも何んとなく、ものうき心持がする本號に新聞聯合社塚本義隆氏に依つてドイツのヒツトラーが計畫せる七千キロの自動車道路に關しての記事が掲載せられたことは涼氣來の感がする、編輯子も聊か鼻氣を克服したなと思ふのである。

内務次官として適任者たる赤木前社會局長官を得て後任とせられ心靜かに病を養はるることとなつた丹羽七郎氏は折角閑地に在つて回復に努められたにかゝわらず天壽を借さず去る七月七日突如として逝去せられた享年僅かに五十、將來内務行政刷新の立役者として其の人格膽力才能に期待する所があつた、寔に近代官界に在つての特異な存在と世間から視られておつた、阿氏の死は惜みても餘りあることである。

陸軍部に於ての大變動が新聞紙に依つて

傳へられたが先是七月十六日突如として眞崎三郎大將を軍事參議官の閑地に轉し渡邊錠太郎大將を教育總監に起用したことが相當各方面にセンセーションを與へたが、大變動の豫報は更らに秦中將菱刈大將等を待命に付するとの事得有識者間に陸軍首腦部も世の認識の那邊に存するかを認識したので、軍部に對する國民の感が明かになつたと評する者あるとのことを耳にした。寡聞な編輯子は素より其真相を窺知するを得ない何か意味ありげな噂である。

選舉肅正の矢叫びの聲はさすがに國民の共鳴を得て山村水郭至る所に普及した、所謂猶も杓子も参加すると云ふ勢となつた、時勢とは云ふものゝ從來の政治家の多數が如何に正道を歩み來らなかつたかを證して餘りあることであるが、國民全體的に不正な投票を爲したとは見るを得ない、地方の區長とか有力者とかブローカーとかと稱せらるゝ徒輩が選舉界の有毒菌であるのは事

實であつて之を利用したのが候補者又は選舉母體である。此有毒菌と之を散布利用する方面の淨化を極力遂行せねばならぬ、原理總論の普及や國民教育や耐忍して他日に待つべきであらう。

天災頻に至るとでも形容するに足るべき九州京都等の地方に於ける大水害、靜岡地方に於ける地震の如き寔に被害者に對しては同情に堪へぬ、だが復舊事業や救濟事業の奏功は編輯子の切に祈る處である。

(H)

定價一部 五十錢  
一ヶ年分 金 六圓

發行所 東京市麴町區外樓田町一番地内務省內  
社 關  
法人 道路改良會

電話銀座(57)四二七  
東京市世田ヶ谷區北澤五丁目七五二

發行兼 編輯者 小島 效

印刷所 東京市小石川區諏訪町五六  
常磐印刷所  
印刷者 奈良直一